

拳チャレ大会 型試合規定

競技の進め方は組手同様、トーナメント紅白対戦方式にて行います。

現行においては準決勝までを「太極その3」、決勝のみ「平安その2」と指定し競技を進行致します。

勝敗の決し方は組手同様「旗判定」。過半数の支持を得た選手が勝者となり次戦へ駒を進めます。

型動作基準

○動作の正確さ

- ① 立ち方、突き、蹴り、受けのそれぞれの技が、正しい目付けの元に正確であること。
- ② 中間動作が適切であり、ムダな動きがないこと。
- ③ 重心の移動やバランスに優れていること。

○技の緩急

- ① 速く動くべきところが速く動けること。
- ② 緩やかに動くべきところが緩やかに動けていること。
- ③ 連続動作が用法に即したリズムで動けていること。

○力の強弱

- ① 力の入れるべき所に適当な力が入っていること。
- ② 力を抜くべき所で力が抜けていること。
- ③ 技の威力が表現できているか。

○息の調整

- ① 息吹や気合いが適切にできているか。
- ② 呼吸の乱れがなく動作との調和が図れているか。

上記の他に次の項目で減点または失格とすることがある。

- ① 申告した型名と実際の演武型が異なる場合（失格）

競技の進行

- (1) 選手は、呼名されたら礼をして試合場に入り、組手同様に紅白線に立つ。
- (2) 主審の「正面に礼」の号令で礼をする。
- (3) 主審が右手を高く上げたのを合図に型を開始する。
- (4) 型を開始する際は、黙想をし、大きな声でゆっくり正確に型名を言ってから型を開始する。(型名を申告する際、絶叫はしない。型名が聞き取れなかった場合は失格とする)よけいな号令は一切かけてはならない。例 「太極その3、用意!」は×
- (5) 型が終了したら自分で直り、主審の号令を待つ。
- (6) 主審の「判定を取ります。判定」の号令で審判団が一斉に旗を上げる。
その時、副審は組手と同じように一斉に笛を吹く。
- (7) 主審の「正面に礼」の号令で選手は礼をして退場する。

競技上の注意点

- (1) 仮想的をしっかりと捉えて動作を行えることが肝要である。目付けは、※1相手を察知する心(意識)を通して自然に行い、ただ凝視すれば良い訳ではない。型では、複数の相手を想定しているので、一方の敵に対し、一旦首だけを向け、あらためて動き出すような類の動きでは、見ている方以外の相手を全く意識しておらず、正しい目付けとはいえない。その後に繰り出される技がどんなに素晴らしくても、不正確な目付けという意味で減点対象になる場合もある。※1、平安その3第20教程目の様に実際の目は正面をみても、心(意識)が後方の相手をしっかりと捉えているような目付けもある。
- (2) 相手の存在を無視したような、いたずらに足を高く上げて蹴る行為や、演武線を踏み外したような行為は、どんなに見栄えが良くとも全くポイントにはならず、むしろ理合いの外れた不正確な動作として減点対象となる場合もある。
- (3) 動作を行うにあたり、無駄な動作や無駄な重心移動は行わない。その後に繰り出される技がどんなに素晴らしくても、無駄な動作が伴えば減点対象となる場合もある。
- (4) 立ち方が極まるのと同時に受ける、蹴る、突くなど、各動作に要求される要素を正しく表現できることが大切である。例えば、立ち方が極まるのと同時に突くべき動作では、立ち方が決ってから突いたのでは、不正確な動作として減点対象となる場合もある。